

## 一般質問発言通告書

議席番号 14 番

氏名 布施 賢司

答弁を求める者

市長

教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

### 発言項目及び要旨

#### 1 地域資源の活性化について

##### (1) 鉄道遺産を活かした地域活性化について

依然コロナ禍ではありますが、ワクチン接種も進み、新型コロナウイルスの新規感染者数が全国的には0に近い減少傾向にあり、これからは停滞していた経済も活気づき、観光や旅行への自粛が大幅に解除される時期は近いと思っています。その先駆けとして本市では先般、観客を入れて「第3回全国未成線サミット in 浜田」が開催されました。このサミットは一年間、開催を延期したものでありますが、久しぶりに大きなイベントでした。開催にあたっては関係者をはじめ地元、佐野町・宇津井町の方達の協力やおもてなしがあつてからこそ開催できたものと思います。

- ① サミットを終えた今、実行委員会 会長として久保田市長のご所見を伺います。
- ② 参加団体の活動事例、パネルディスカッションにおけるパネラーからの産業観光への活用や集客のポイントの紹介等がありました。サミットで終わりではなく始まりとして今後どう鉄道遺産を活かしていくのか伺います。

##### (2) 日本遺産のブラッシュアップについて

日本遺産は現在104件で、目標の100件を超えました。文化庁は総数をおおむね維持した上で、活動が不十分な遺産の取消しと新たな候補の追加認定を進めるとしています。審査では今後の計画のほか、観光客数などの目標達成度や、ガイド育成や案内板整備といった取組を確認しているとありました。本市には北前船寄港地の「外ノ浦」や「石見神楽」の二つの日本遺産ストーリーがありますが、取組があまいと、認定継続に赤信号、それも例外ではないと思います。

- ① 昨年開催予定であった北前船寄港地フォーラム in 浜田が中止になって以来、「外ノ浦」は日本遺産に認定された構成自治体の一つで、何か盛り上がりを感じた印象です。石見神楽の日本遺産と比べその価値を市民で共有出来ているのでしょうか？認定期間（6年間）経過後も認定が継続されるためには、これまで以上に地域の活性化や観光振興に活かす取組をしなければいけないと思いますが、ご所見を伺います。
- ② 寄港地や船主集落といった現在と対比できる昔の写真などを入れた説明板、日和山入口の方角石への案内板の不足、石見焼きの「すり鉢やはんど」などが残る登り窯の跡地、船主の蔵や納屋、石組みの井戸跡など今、保存整備しておかないと失われていきますがご所見を伺います。
- ③ コロナ禍において夜神楽は完全予約制で実施されていますが、先日、お客様をお連れして夜神楽を久しぶりに鑑賞しました。ソーシャルディスタンスを取った上での満員（60席位）、大反響でした。アフターコロナを見据えた今後の取組を伺います。
- ④ 2025年大阪・関西万博を契機とした地域活性化を目指す首長連合が11月8日、発足しました。（発起人、加西市など14市町村）万博イベントなどを通じて地域の魅力を国内外にアピールし観光客の増加などにつなげたい考えとし、全国の自治体に参加を呼び掛けています。チャンスと捉え早くから参加することを検討したらどうか、所見を伺います。（前回開催の大阪万博1970年、昭和45年では、石見神楽のオロチ、8頭立て披露）

## 2 カarbonニュートラルの取組について

日本は気候変動の影響を最も受けている国の一つでもあり、自然災害の種類が多く、そういう国は世界でもないと思いますが、それにしても昔は一晩の雨で激変するような事はありませんでした。それは地球温暖化の影響であると国際社会が認める所です。その対策が、「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」宣言を踏まえ、国・県と協調した取組が早急に求められています。

- ① 今までと違った見える形の取組が必要であると思っています。私は脱炭素社会の実現を目指す取組として、総合振興計画後期基本計画の環境部門、主要施策1「再生可能エネルギーの導入及び省エネルギーの推進」の取組に、ご提案として乗り換え時の公用車は全て電気自動車にして、動く蓄電池として災害時には避難所で活用して、使わない時は貯めるようにする取組も必要だと思っていますが、ご所見を伺います。